



自己紹介 「ロマンの道」公開までのあゆみ

兵庫県多可町ののどかな山里出身です。同郷で日本を代表する二人の登山家、新田次郎の小説『孤高の人』（新潮社）のモデル加藤文太郎氏（現新温泉町）と、世界的な冒険家、植村直己氏（現豊岡市）に刺激され、はたちのころから登山を始め先鋭的で高度な技術を要する、より困難な登山「アルピニズム」に目覚めました。

強力な組織と山仲間、よき指導者に恵まれ、厳冬期に北アルプスの穂高岳、剣岳、富士山頂火口壁などの岩壁登攀に没頭しました。1976年、当時まだ鉄のカーテンに閉ざされていた旧ソ連から招待を受けた「パミール国際キャンプ」に「日本山岳会パミール学術遠征隊」の隊員として参加し、ソ連最高峰の「コミュニズム峰」（7495m）に日本人として初登頂に成功しました。

遠征で自動車会社をスピンアウト。1977年に個人事業で機械設計事務所を開設しました。

1979年、29才の時、全員はたち代の7名で「豊田山岳会インドヒマラヤ登山隊」を結成し、ホワイトセール峰（6445m）の難攻不落のルートに挑戦。シェルパを使わず、隊員だけで800mの固定ロープと縄梯子を張りめぐらし、新ルートから全員同時に日本人として初登頂に成功しました。ヒマラヤに前人未登のバリエーションルート（一般のルートとは異なる、より困難なルート）を開拓する大きな夢は実現しました。遠征中、頂上アタック前に30才になり、帰国後アルピニストとしてのわらじを脱ぎましたが、現役時代は仲間から遭難者を出すことなく幸運でした。

遠征後は機械設計事業に専念し、1989年にコンピュータ支援設計システム（CAD）を導入したのが登山ツアー企画開発の始まりです。1991年のバブル崩壊で景気は一転し平成不況、リーマンショックと何度も不況の波をかぶりながら、機械設計の合間に我慢強く登山ハイキングツアーの開発を続けました。2000年以降は取引先に恵まれ、企画支援と山仲間がガイド事業を続けています。

2002年ごろから、列島や県をまたぐ「ロングトレイル分割踏破計画」の先駆者として、理詰めで開発を始め15年になります。

2005年に、機械設計事務所を（有）アルプイージーの社名で法人化。アルプは高峰、イージーはエンジニア、エコロジーの総称です。40年間の機械設計事業は技術と納期最優先のベンチャー事業で、大型設備投資計画の一翼を担っており、性格上、責任感が先走りして、昔も今も仕事に追われ、家族に迷惑をかけて反省の毎日です。

2005年以降パソコン処理能力の向上からIT（情報技術）が急速に進歩しました。各種システムの操作と情報の組み合わせにより、数百キロから東海自然歩道では千キロ以上に及ぶロングトレイル分割踏破の全体像から詳細までのイメージがふくらみ、CADを駆使して詳細設計を完成させます。先端技術の進歩は私にとって大きな助け舟です。おかげさまで2005年から2016年にかけて、プロガイドの支援を得て5本の「ロングトレイル完歩計画」がヒットし、主催社やお客様に喜ばれました。

2008年、政府により「エコツーリズム推進法」が施行されました。その後も、エンジニアの観点から、エコツーリズムの基本理念を切り口に、企画開発を続けています。本計画の基本理念は下記といたします。

- ①充実感と健康増進
- ②現地交流で地域の活性化
- ③省エネで環境にやさしい歩く旅

2015年から準備を始め、長年多くのリピーターと優秀なガイドさんに支えられている自力開発の企画を信じ、ガイドさんたちと準備を充実させ、2017年春にスタート予定です。微力ではありますが、「都市部と地域の交流のかけ橋になれば・・・。」と大きな夢を描いています。

「ロマンの道」公開にあたり、県観光振興課に審査をお願いしたところ、「旅行業には該当しない」とご返事をいただき、公開させていただくことになりました。

関係者各位のご支援と愛好者様のご参加をよろしくお願い申し上げます。

本企画は長い年月をかけて構想と開発を継続しています。IT、各種システムで構築した情報を参考に、CADを駆使した設計および検図、校正、印刷、運営すべてが独自でオリジナル企画です。文章やマップ表現に不具合がみつかりましたら、おわびいたします。